「大祓詞」現代語意訳

高天原という天上の世界に住んでいるカムロギという男の神様と、カムロミという女の神様が大勢の神様たちに集まってもらいこう言いました。

「地上にある日本という国を平和に暮らせる立派な国に作りあげなさい」

しかし地上には不平不満を言って反対する神様たちもいて、天上の神様たちと地上の神様たちは皆で何度も何度も話し合いました。

やがて反対していた神様も理解し、協力してくれるようになりました。

すると岩や木や、葉っぱまでもがこれに賛成し、日本の国は安心して暮らせる平和な国になりました。

そこでカムロギ、カムロミの子孫であるスメミマという神様が天上の世界から雲をかき分け押し分けて、地上に降りてきました。

スメミマは大きな家を建て、日本の国をもっと立派な国にしようと努力します。

しかし地上に住む人間というものはついつい嘘をついたり悪いことをしたりして罪をつくり悪い心のケガレをたくさん溜めてしまいます。そこでスメミマは罪やケガレを消し去り、清らかにする方法があることを教えました。

それは細い木をきれいに切りそろえて、たくさんの台の上に置き、麻の木の皮を細かく切り裂いてお祓いの道具にし、神事を行い、お祓いの言葉である「祝詞」を唱えることでした。

こうすることで天上と地上の神様たちが願いをお聞きになり、罪やケガレは一つも残らずきれいに清められるのです。

それは、まるで雲や霧が風で吹き飛ばされて消えていくようでもあり、船が海を自由に泳ぐ姿のようでもあり、森の木々を切るとまわりが明るくなって気持ちまで爽やかになる様子に似ています。

そうやって消えた罪やケガレは神様たちの力で、広い海に流され、海の底に沈められ、そして深い地下の国に吹き飛ばされて、最後はどこかに行って跡形もなくなるのです。

このようにあらゆる罪やケガレをきれいに消し去り、祓い清めてくださいますことを天上の神様、地上の神様をはじめとするたくさんの神様がお聞き下さいますよう謹んでお祈り申し上げます。

参考文献　神社新報社発行「親子で読む大祓詞物語」